第三十四回新潟教区仏教壮年研修大会　班別討議の様子

第三十四回新潟教区仏教壮年研修大会を終え

地蔵堂組願成寺門徒　山崎　久四

日　時　平成二十八年十二月十日（土）十三時三十分～十七時まで
会　場　本願寺新潟別院（参加者六十一名）
講　師　宮本　義宣さん（仏教壮年会連盟講師）

この度、地蔵堂組が主幹で「これからの仏壮」～心豊かに生きるために～をテーマに大会を開催させていただきました。

地蔵堂組では九ヵ寺全寺院が仏教壮年会単位登録をしています。しかし実際に活動している寺院はほとんどなく停滞傾向であります。仏教婦人会は活動が活発であっても、仏教壮年会は年に何回か飲み会をする程度であり、活動という活動は皆無に等しい状態であります。

大会に際し、東京教区より宮本義宣先生をお招きし、これから私たちはどのように活動していけば良いのか、一から始める気持ちでご講義いただきました。いろいろなお寺での活動例や、きっかけ、小さいことから始める、なんでもできることから始める、他の寺院や組と協力する、一回で終らない会にすることなど多くのことを学ばせていただきました。

なにより「私」に何ができるか考え行動にうつすことが大切なことと学ばせていただきました。私も地蔵堂組で仏教壮年役員を二期六年やらせていただきました。今回の学びを心に留め、「私」にできることを見つけ考え、行動にうつしていきたいと思います。

地蔵堂組各寺院よりご協力いただきましたスタッフの皆さま、参加していただいた皆さま、誠にありがとうございました。ご寺院さまと皆さまと朋に仏教壮年会活動を盛り上げてまいりましょう。

新潟教区全戦没者追悼法要
第十九回 新潟教区平和を誓う念仏者のつどい

日時　平成二十八年十二月十九日(月)十三時三十分～十六時十分
会場　本願寺新潟別院（参加者八十七名）

「実践運動」新潟教区委員会　社会実践部会長　井上　慶永

昨年の十二月十九日、「第十九回新潟教区平和を誓う念仏者の集い」が開催されました。各組の念仏者や地元の方々を中心に約八十名のご参加でした。今日の日本情勢を概観すると武力で紛争を解決しようとする国になりつつあるとの認識から、敬和学園大学の藤野豊教授をお迎えし「憲法九条と平和・人権」～日本は戦前に回帰しているのではなく新たな戦時下を作ろうとしている！～と題してお話いただきました。

アジア・太平洋戦争時代は、被差別者を排除しつつ疑似平等観を煽り、国が行う最大の公共事業として戦争に突き進んだこと、日本国憲法における平和・人権が自民党政権下でどのように解釈され変遷していったか、安倍政権が打ち出す様々な施策や首相の発言等を通して国民に公益への服従を迫る状況が、戦時下の日本と同じであるとのご指摘をいただきました。

宗門も国家権力に迎合し教えを曲げて戦争に協力し、いのちの尊厳を踏みにじった歴史を持っています。平和を願う念仏者として、改めて宗祖のおこころに立ち返り非戦・平和の歩みを進めていきたいと思う事です。

全戦没者追悼法要

講義の様子

参加者の声

巻組西永寺住職　日野　憲一さん

日本の置かれている現状を具体的に聞かせていただいた。戦後生まれの私たちは、きちんと戦争の歴史を学び、きちんと次世代に伝える責任があることを実感した。

憲法の問題については様々な考えや立場があるのは仕方ないことかもしれない。しかし『二度と戦争はしない』という願いは共通なはず。「兵戈無用」の教えに今一度立ち返るよい機会となった。

元上組託念寺門徒　佐藤　美枝子さん

日本は戦争をしない国…子どもの頃教えられ世界不穏の時代も憲法を信じ安心しつつ育ちました。今回『新たな戦時下へ…』のお話に自分の政治への関心の低さを痛感、平和の不安を一層感じました。

戦争の惨さ、悲惨さを次世代に伝えつつ、政治（平和、人権）にもっと関心を持ち、非戦平和運動に取り組んでいかなければ…と思います。

与板組光源寺門徒　真島　肇さん

今回「憲法九条と平和・人権」をテーマのもと講演を聞き歴史的事実を学ぶ良い機会でありました。戦後七十一年改めて「繰り返してはならない」非戦平和への願い決意を誓ったことであります。

しかし現実社会では非戦平和主義のもととして「国民の命と幸せな暮らしを守るため」にと平和安全法制が進められています。この現実に私たちは「忘れてはならない」歴史的事実に気づき、生きとし生きるものすべての真の「いのち」の尊厳を求め、非戦平和が永久に続くことを願うことであります。

非戦・平和に関するパネル展

真宗教団連合新潟県支部寺院研修会に参加して

広報部会委員　三条組　至徳寺衆徒　宗村　泰行

日　時　平成二十九年一月二十四日（火）十四時～十六時三十分
会　場　本願寺新潟別院（参加者七十五名）
テーマ　過疎問題について―各宗の取り組みと成果―

去る一月二十四日に、本願寺新潟別院に於いて真宗教団連合寺院研修会が開催され、他宗派の方々も多く参加され、過疎問題についてをテーマに中外日報社の西谷明彦さんよりご講義いただきました。

「過疎の問題は近年になって急に発生したわけでなく、高度経済成長により産業構造が変化したことから徐々に進行してきました。しかし昭和四十四年に出された本願寺派の『宗門診断白書』では、過疎問題より都市開教を重視した問題提起がなされていました。近年、本格的な人口減少社会の到来で現実味を帯びる過疎の不安、恐怖、またすでに寺院経営が成り立たなくなっているとの声もあります」という内容をお話しされ、過疎問題についての各教団の対策対応について紹介されました。

具体的な対応は社会全体の問題ということもあり、困難を極めますが、各教団共通して、み教えを後世まで伝えていきたいとの思いがあります。参加された僧侶、門徒の方々も熱心に聞き入っておられ、私も微力を尽くしみ教えを届けていきたいと思いを新たにしました。

講義の様子

「お慈悲は親ごころ」

三条組大願寺住職　阿部　文雄

日が暮れても小学一年生の娘が帰ってきません。お母さんは心配で彼方此方（あちらこちら）を探しまくります。夫も仕事先から急行し、警察に連絡するまでになりました。その時、自宅に電話です。

「お宅のお嬢ちゃんは預かってますよ、仕事から帰ったら私の娘と遊んでる知らない子が居たので遅いから帰りなさいとは言ったのですけど『大丈夫』と言って帰る気がないようなので、ランドセル内の連絡先を見て電話した次第です」

急いで迎えに行きました。相手のお宅にも謝りました。どんなに心配したことか。その夜、実家の母親に話したところ

「貴方もね、同じ頃にね、同じようなことしたよ」

と言われました。知らされた親心です。

さて、私たちはかねてより阿弥陀さまを親さまと言ってきました。例えて言えば、阿弥陀さまのはたらきは親心です。「親」が通用しにくい時代となったと思います。

「親に抱かれて親探し、くたびれ果てて親の懐」という掲示板を見ました。深く味わいたいものです。

寺院巡り

長岡組　西入寺

西入寺本堂は長岡空襲で焼失し、昭和四十一年に再建しました。当時は「本堂であれば」という思いだったのでしょうが、いろいろと不備がありました。そこで維持費を使い整備をしていきました。

鉄筋二階建ての本堂であり、階段を登ってお参りするのが難しい方のため、庫裏再建のおりエレベーターを設置しました。

僧俗ともに高齢者になりますと膝や足腰が悪くなり正座が困難になります。参拝席は椅子席と畳敷きとなっています。同様にお内陣も椅子席にしました。

本堂の荘厳を正式なものにしました。

十年ごとに本堂、庫裏の改築費用並びに地震火災保険の加入費も予算化されています。

墓地も整備し車いすでもお参りできます。また墓地整備に伴い新規の墓地が建てられるようになりました。

境内地はすべて消雪設備となっています。

ラジオ法話　新潟教区布教団による　ラジオ法話
FMながおか　八〇・七　毎週月曜~金曜　十六時十五分より放送中です。
（放送地域は長岡市全域、小千谷市、小国、川口、山古志、出雲崎、見附）

〇今後の予定

ご関係の皆様の、多くのご参拝、ご参加をお待ちしております。

・本願寺新潟別院「どんとこいフェスタ」
日　時　平成二十九年　三月二十六日（日）十五時十五分より
会　場　本願寺新潟別院

・真宗教団連合新潟県支部　公開講演会
日　時　平成二十九年　三月二十九日（水）十四時より
会　場　本願寺新潟別院
講　師　旭堂さくら　さん（講談師・歌手・浪曲師）

・新潟別院常例法座
日　時　平成二十九年　四月九日（日）十時三十分時より
会　場　本願寺新潟別院
講　師　畑中 尚治　さん（本願寺派布教使・福井教区）

ご門主様ご著書の紹介

教区・別院ホームページ↓
ｱﾄﾞﾚｽ：http://nkyouku.jimdo.com/
Email：nkyouku@aroma.ocn.ne.jp

編集／浄土真宗本願寺派「御同朋の社会をめざす運動」新潟教区委員会　広報部会
〒九四〇－二四〇二　新潟県長岡市与板町与板乙四三五六　本願寺新潟別院内
TEL：〇二五八-七二-二一一〇　FAX：〇二五八-七二-二五三六